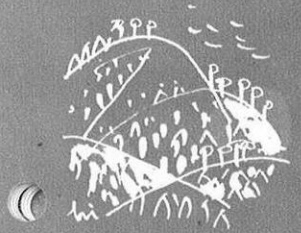


静かなる 山々……

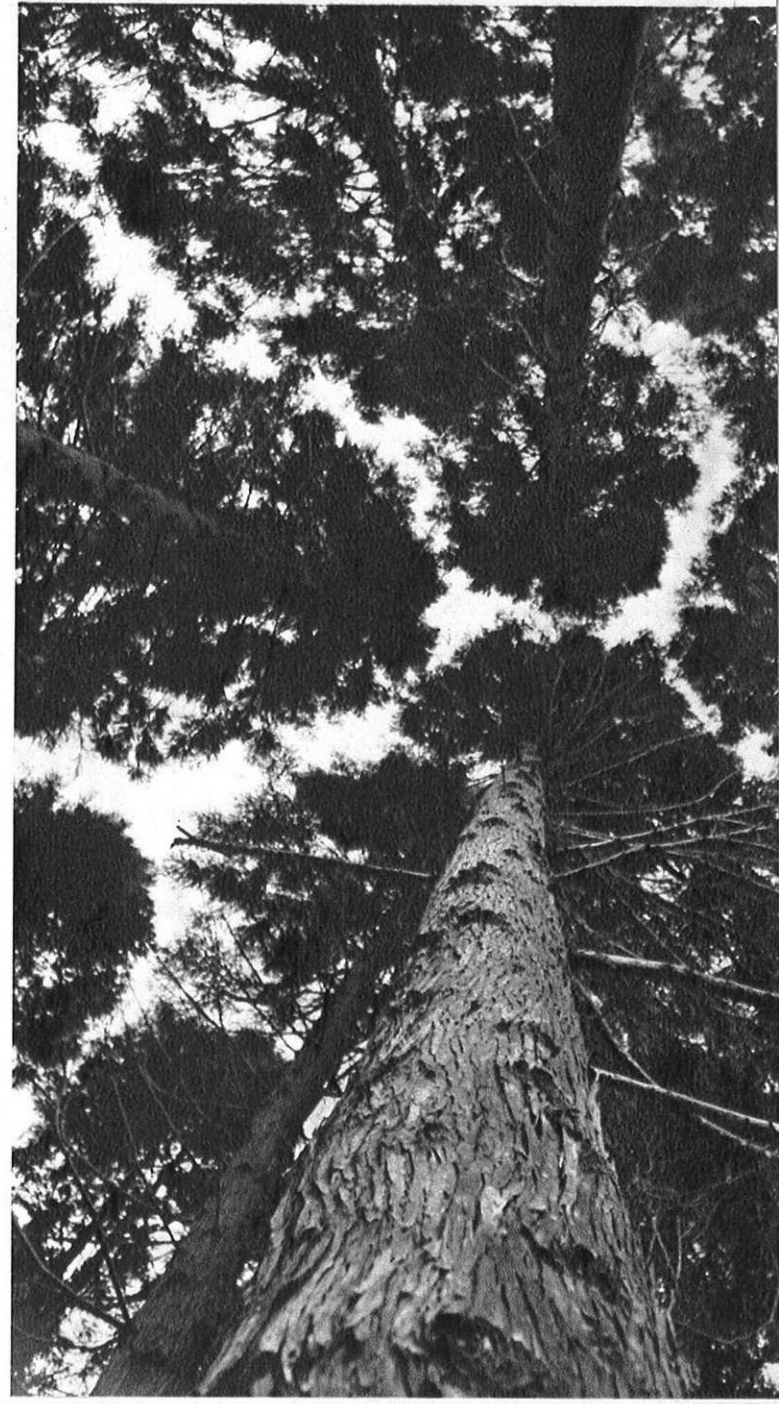
啄木の歌ではないが、ふるさとの山は有難く、何もいうことはない。異郷にありと思う故郷の山母なる緑の山は私たちの心のなぐさめでもある。現実的にいえば、山に木があつてこそ災害から私たちの生活はまもられ、又建材からパルプ、薪炭にいたるまで日頃の恩恵は限らないものがある。だがもつと現実的にいえば山村の暮しの斗いと、これからの新しい林業経営の問題点も自ずからクローザップされてくるわけである。



左・県有林と下の各所にある



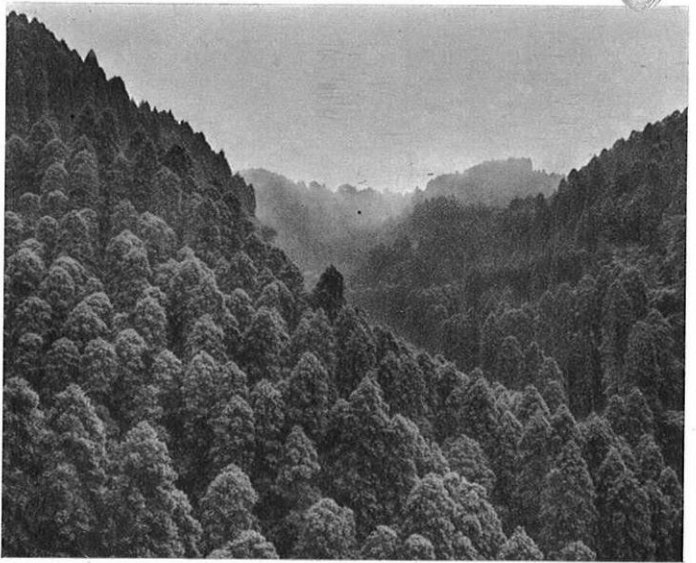
右・天に向かってそびえる小国杉
下・ウツウたる菊池の保安林



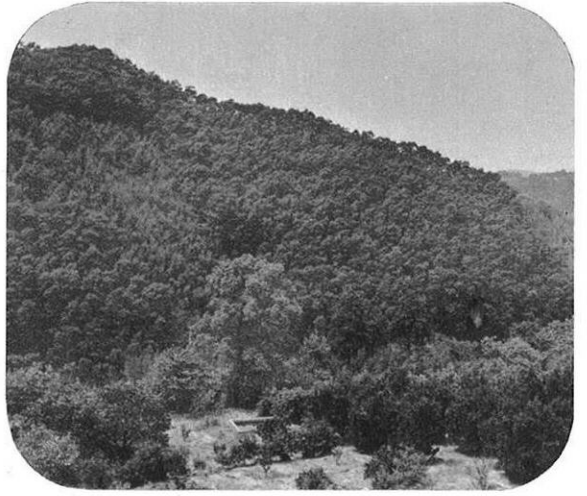
下・素性のよさで知られる芦北の松



下・幾重にも続く五ヶ荘の人工造林の杉



下・天草林業の成長株…モリシマ



下・林業開発の動脈、林道は着々整備されている（五ヶ荘にて）

